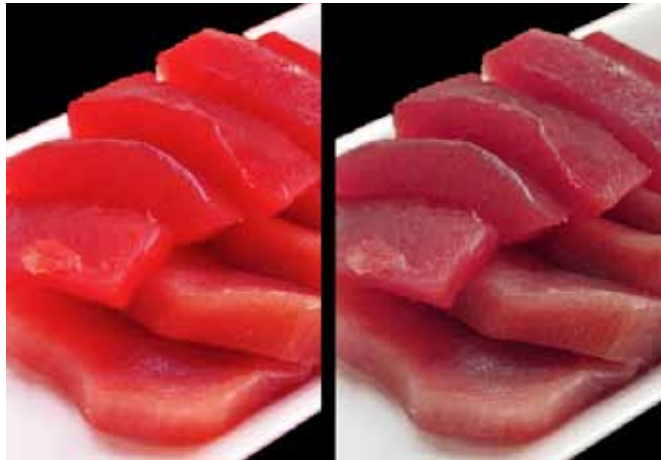
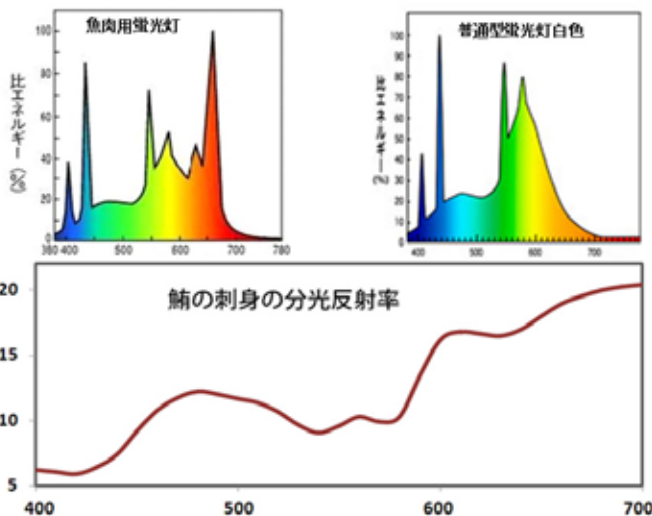


# 色も色いろ 第27話 魚肉用蛍光灯と演色 (colour rendering)



魚肉用蛍光灯（左）と普通型蛍光灯白色（右）で見た鮭の刺身の見え方



魚肉用蛍光灯（左）と普通型蛍光灯白色（右）の分光分布と鮭の刺身の分光反射率（下）

スーパーの棚に並んだ刺身(特に赤身)が非常に美味しそうに見え、購入して帰り、「お父ちゃん、今日はいいマグロがあったので買って来たよ」と取り出して見せると青黒くくすんで見え、「お前の眼は節穴か」と罵声を浴び、がっかりした経験はありませんか。

スーパーの魚や肉売り場、あるいは鮭屋の照明には魚肉用蛍光灯や電球色に近いハロゲンランプが使用されている。一方、家庭では蛍光灯や最近ではLEDランプの使用が多い。特に安価な普通型蛍光灯白色や、初期のLEDランプでは、スーパーの照明に比べ色変化は顕著で不味そうに見える。理由は下図のようにマグロは赤い光と青い光を主に反射する。肝心の赤い光をあまり含まない照明で照らしても赤くは見えない。

「スーパーに騙された」と腹を立てず、家の照明も工夫すれば、同じ食材でも美味しく頂ける。高級レストランでは電球色の照明やロウソク等を使用しているのは、団らん感やムードを高めるだけでなく、食材を美味しそうに見せる演出なのだ。

照明光(イルミナント)が、それで照明した種々の物体の色の見えに及ぼす効果のことを色彩用語で演色という。光源(イルミナント)の特性と考えたときには演色性という(JIS Z8105 2093)。演色性が高い悪いといういい方をするが、正確には演色評価数が高い低いである。基準となる光源(自然日光やタングステンランプ)に比べ試験色の色ずれがどの程度あるかで評価する。

演色は英語では Colour Rendering で、直訳すると色演出である。演色評価数の高低に捉われず、照明光の効果で生活空間の色を演出してみてもいいかが。LEDでは照明光の色を昼白色から電球色までワンタッチで変更できるランプがあり、食卓の上に取り付けておけば、料理に応じて食材が引き立つ演出も可能かもしれない。また短波長から長波長まで広い領域の色がきれいに見えるランプも市販されている。

Color Lab. for full Life では、演色やメタメリズムを判り易くインパクトをもって観せる教材を提案している。(http://colaful.jp/kyouzai/index.html#product7)